

第4号 1993年



東京府立第二高等女学校同窓会  
東京都立竹早高等学校同窓会



編集委員

- 吉川 凱江 高女四十四回生
  - 内山 隆子 高女四十九回生
  - 小澤 悦 三回生
  - 高木萬里子 三回生
  - 森本美智子 三回生
  - 内海 晶 四回生
  - 山廣 俊雄 七回生
  - 今永 絢子 十回生
  - 関 文隆 十回生
  - 角掛 隆 十回生
  - 吉岡 忠俊 十三回生
  - 山田 幸子 高女二十一回生
  - 渡辺 信博 高女二十一回生
- 表紙・文中さしえ  
稲葉 良子 高女 四十回生

篁会報

第四号

平成五年四月二十四日発行

発行・篁会

東京府立第二高等女学校同窓会  
東京都立竹早高等学校 同窓会

〒113 東京都文京区小竹四ノ三ノ一 篁会館内

編集・篁会編集委員会

電話・〇三(三)八二五 六七六五

印刷・雑ニット・印刷所

〒113 東京都文京区千駄木三ノ三ノ二

電話・〇三(三)八二二〇二一〇

# 平成五年度篁会総会の御案内

下記のように総会を開催いたします。お誘い合わせの上ご出席ください。

日時 6月19日(土)  
 受付 午前11時より (11時20分 総会開始)

会場 日比谷 松本楼  
 東京都千代田区日比谷公園1-2 ☎03-3503-1451

会費 6,000円(学生は2,000円)

内容 ◆ 総会議事

◆ 講演「桂離宮の修復を終えて」  
 講師 佐藤 理(おさむ)氏

◆ 懇親会 立食パーティ 12時30分より  
 ご出席の方は同封の葉書で5月31日までにお返事をお願いします。

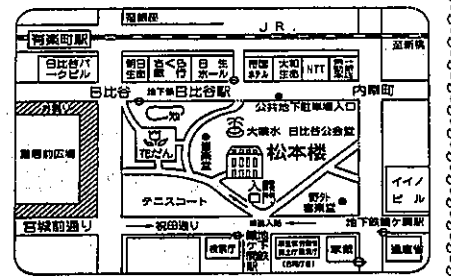
## 【講師紹介】

- 1951年 日本大学工学部建築学科卒業
- 1956年 文化財保護委員会(現文化庁) 建造物課勤務
- 1974年 宮内庁京都事務所工務課転勤、桂離宮御殿修復工事に従事、以来約20年の永きにわたる昭和の大修理を指揮、日本文化の代表的建築として世界に識られている「桂離宮」の研究に生涯をかけて傾注されています。
- 1991~1992年 ハーバード大学客員研究員として招かれ、日本文化の紹介に多大なお力を尽されました。現在京都府立大学非常勤講師、福井工業大学助教授

桂の美は、日本的省略美の粹として、人々に理解されております。現在の京の大工職方の腕前を結集して、これを解体し、再び組み上げられました。その間に得られた知識、美の奥義をハーバード大学の講座に使用されたスライドを鑑賞しながら解説をしていただきます。

- ◆ 今回幹事  
 高校 3回生(昭和26年卒) 御代03-3992-4360  
 24回生(昭和47年卒) 森本03-3815-1549  
 44回生(平成4年卒)

- ◆ 次回幹事  
 高校 4回生(昭和27年卒)  
 25回生(昭和48年卒)  
 45回生(平成5年卒)



## ご挨拶



眞会会長 愛知 高  
 平成五年のお正月、今年もどうぞよい年でありますようにと願っております。六日のテレビで皇太子様の御婚約のニュースを知り、待ちに待ったことですので、こんな嬉しいことはございませんでした。一日も早く皇太子妃がお決まり遊ばしますことを願っております。国民は、心からお喜び申し上げます。雅子様の何もかもお揃い遊ばされておいでのお人柄を拝察いたして、御尊敬の念を持ち、御成婚の日を楽しみにお待ちしております。

長い間かかっております母校の改築も、ようやく目算が付いてまいりました。完成の日を思い、今から楽しみにいたしております。狭いながらも、本当に長い間の夢がかなえられる時がまいります。母校府立第二高女は、昭和の初め頃から勉学はもとより体育にも大いに活躍した時代がございます。金栗四三先生、上山辰二先生方が御指導なされ、バレーボール、テニス等に優秀な成績を納めました。昭和二年にはバレーボールの全国大会で優勝しました。

バスケットボールも常によい成績を残しました。テニスでは昭和六年頃に、現在湘南篁会会長の神谷(旧姓林)美喜子様や井上(旧姓岡田)早苗様方が、全国女学生テニス大会で度々選手権を獲得されました。戦後は井上早苗様、

朝長(旧姓新納)慶子様が日本庭球協会で大変御活躍になり、現在も井上早苗様は日本テニス協会の評議員をなさり、日本女子テニス連盟の会長、関東テニス協会副会長等を遊ばしていられます。

このように勉学に体育に伝統ある竹早高校に学んだ私どもでございます。今後とも励まし助けあってまいりたいと思っております。いつまでも忘れてならないのは、その間大変お世話いただきました先生並びにPTAの方々のことで、ただただ感謝申し上げるほかはございません。

終りに、竹早高校新築落成のお祝いの日を心からお待ち申し上げ、本校の一層の御発展をお祈りする次第でございます。

## 新しい竹早高校を目指して

校長 金井 忠雄  
 竹早で学んだ同窓生の皆さまには、各方面でますます活躍のこととお慶び申しあげます。私は、平成四年度から本校第二十代校長として勤務させていただきます。



校以来、総合選抜制度の高校から学校群制度の高校へ、更にグループ制度の高校へと変遷してまいりました。その間、一貫して文教地区にある地域の有数の進学校として、卒業生を大学へ多数進学させ、国家・社会に有益な人材を育ててまいりました。

東京都では、平成六年度から、

都立高校への入学を全て単独選抜に変え、学区も隣接学区から受験できるようになりました。今まで都立竹早高校は、隣の都立小石川高校と並んで、四十一グループの進学校として実績を上げてきました。明後年からは受験してくる中学生の棟相がかなり変わることが予想されます。機会あることに中学校へ出かけ、あるいは高校説明会を本校で開き、竹早高校の良さを保護者の方に知ってもらうよう努めてまいります。中学卒業生の激減に伴い、公立校と私立校の競合関係が激しくなり、いかに特色ある都立高校として存続発展していくか、どの高校も大きな課題を背負って全教職員あげて努力しているところです。

一九〇〇年創立以来百年に及ぶ歴史を持ち、一五九〇二名の卒業生を擁する竹早高校も、特色ある公立の高校として二十一世紀に向けてどう変化発展していくか、ますます期待されるころです。このような時期にあたり、ぜひ同窓会の会員の皆様方の物心両面にわたる竹早高校への絶大なご支援ご協力をお願いするところです。

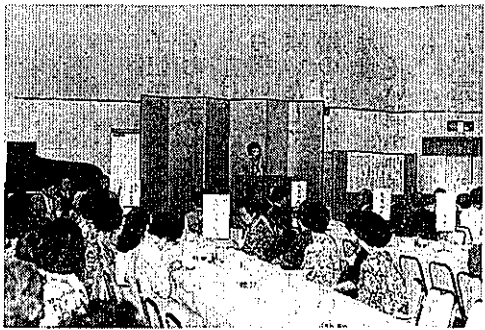
本校には、昭和五十六年以来東京都立高校の海外帰国生徒学級が設置され、外国の中学校を卒業した日本人生徒が、毎年十数名ぐらいつづつ入学、竹早高校生の良い刺激になっております。これも我が竹早高校の特色の一つです。

校舎の全面改築の一期工事が完成し、地下体育館・格技棟等は平成七年に落成します。最高の学習環境が整い、竹早高校が新たな発展を遂げられるよう、卒業生のみならず、方々の強力な応援をお願いする次第です。ヒマラヤ杉のように竹早は大きく伸びようとしています。

### 学生会を終えて

(高女四九回生) 内山 隆子

平成四年度学生会総会は昨年六月六日(土)にアルカディア市ヶ谷私学会館(富士・西の間)に於いて行なわれ、梅雨時にもかかわらず、好天に恵まれ出席申込者数二〇九名のうちほぼ前年通りの一七九名のご出席がありました。総会は持永さだ子さんの明快な司会と、多賀泰子さんの時宜を得た開会の辞に始まり、愛知富富会長のご挨拶、金井忠雄新竹早高校校長のご挨拶と活気溢れる学校の様子や進学状況を伺いました。続いて議事を進行、平成三年度の会計決算の承認を頂き、会計報告は文末に掲載してありますのでご覧ください。講師星野昌子さんの講演「メコン



野昌子さんの講演「メコン」

河畔から見た私達の暮らし」の内容は、会報一九ページに概要を紹介してあります。講演内容は、同世代の者として実に興味深く有意義に拝聴しました。星野さんは三号の講師紹介にありますが、現在JVCのポランティア活動を行なうと同時に「かながわ女性センター」の館長として幅広い活躍を続けておられます。

休憩の後、木村勇三元校長の音頭で乾杯をして宴に入りました。ご来賓の旧職員のご挨拶を頂きながらなごやかな落着いた雰囲気



な落着いた雰囲気  
で会食をすすめ北沢久子さんのピアノ伴奏で、無事終了いたしました。私ども

戦争の終盤近い昭和一九年に入学し、戦後の学校改革で新制高校となりました。そのため、同年代ではありませんが卒業年度が異なり、高女四九回生と高校二回生に分かれております。そのため学年には故野口深知子さんをはじめとして合計四人の理事がおり、学生会の会合には十年以上欠かさず出席しております。

今振り返っても先輩方の担当した素晴らしい数々の総会が思い出されます。はじめのうちは遠くでぼんやりと眺めて参加させて頂きましたが、この近年は当番の時の迫るのを切実に感じておりました。大小の集まりがある度に出席して学年の仲間と会の企画を提案し、相談を重ねてまいりました。総会の中でイベントの企画も多く出されましたが、予算と会員の上下の年齢差を考えるとなかなか決まりません。相談の結果、講演を全員の推薦で星

野さんに依頼し、承諾を頂きました。

それから同級の深尾美枝子さんが、小ぎれを使って描く見事な絵の個展を催されました。その作品の何点かを会場に展示して頂き、好評を得ました。会場の下見・予約の準備に入ってから一年間、学年のみなさんの協力はもとより総会遂行の為にご援助を頂きました。愛知富富会長はじめ役員の方々のご協力に深く感謝いたします。

また会報発送の為に快くお手伝いを頂きました。皆様方に心よりお礼を申し上げます。総会進行のお手伝いをしてくださった高女四三回生の西村正美さん、白木宏和さんあがとうございました。

総会の終了後、卒業以来四十余年、久方ぶりに結束して一つの行事を無事に果たした思いを、めいめいにかみしめながら学年の反省会を催しました。

更に、有志で反省会の二次会を江ノ島に移し、一夜おいしいタイ料理に舌つづみをうち、星野館長の「かながわ女性センター」に一泊して語りあかしました。

これからも年に一回江ノ島の会と称しこの集いを続けて楽しむことになりました。同期のみなさんどうぞご参加ください。

最後に長年私たちの学年の為に心を配りご尽力をいただきながら、事なかばにして不慮の死を遂げられた野口深知子さんに、感謝と哀悼の念を捧げたいと思います。



### 学校の現況

#### 新校舎完成

第一期工事了

教頭 高原 将

平成二年九月から十二月にかけて体育館と部室の解体工事がおこなわれ、平成二年十二月から二十六カ月の予定で校舎棟とプールの建設が始まり、平成五年二月に完成した。

#### 新校舎の概要

新校舎は鉄筋コンクリート造り、地下一階、地上五階建てで床面積は九二六〇平方メートル、全館冷暖房完備である。昭和四六年に完成した現校舎は、二十年一寸でその役目を終えたわけであるが、延面積は五九〇七平方メートルであり、新校舎の面積は一・五七倍に及び、建築費は、本体工事から電気設備、ガス、空調設備まで含めて三二億円と伺っている。以下新校舎のセー

#### 外装

灰色に吹き付けられた外壁に、装飾のために窓の上下に貼られたラスタール色(紫)のタイルが印象的である。タイル一枚の長さは二七センチであるが、帯状のタイルは、太陽光線の具合で微妙に変化して見える。

#### 空調設備

地下一階の機械室、電気室を見るとまるで工場ではないかと思われる大型の集中冷暖房の機械が設置されており、各部屋はファンコイルユニットにより冷暖房がおこなわれる。都立高校においても事務室、警備室、保健室、進路室、校長室などに冷房設備が設置されてきたが、職員室、各教科の教室、準

備室や生徒用の教室には通常設置されていない。本校でも現在の校舎では前記の各部屋と帰国相談室にのみ設置されていたのに対し、新校舎ではすべての部屋に冷暖房設備があり、快適な学校生活が約束されている。

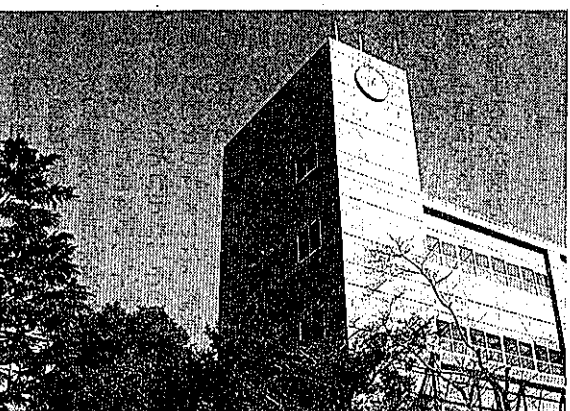
#### コンピュータ室・地学教室

平成六年から始まる「家庭科」の男女履修にむけて一階には、施設、設備の充実した調理室と被服室がある。女子更衣室も兼ねている和室には、水屋の設備もあって茶道クラブや箏曲クラブの活動の場として有効に利用されることである。

#### 二階にある部屋で目をひくのは図書室とコンピュータ室である。

現在の校舎ではスペースがないために見送られてきたのがコンピュータ室であった。今回先生用を含めて四五台のコンピュータが設置されそれがネットワークを組んだ状態になるので、理科・数学・家庭科等各教科でコンピュータを活用した授業が今後展開されることになる。

三階には普通教室が六室と社会科・化学・生物教室や進路指導室が配置されている。一階と三階の廊下は、二二〇メートルにも及び長大なもので、現在はロッカー室も置いていないので誠に広々としている。



学教室が配置されている。特に地学教室は現校舎にはなかったものである。

#### プール

本校はプールのない数少ない都立高校であったが、一期工事で長さ二五メートル、幅一三メートル、六コースのプールが完成した。校舎の地下一階に男・女のプール更衣室も完成し、体育の授業や水泳部の活動が待たれている。

#### 第二期工事に向けて

地域の方々に説明会を開いたあとで、現校舎の解体工事、その後二十五カ月に及び第二期工事で、地下に体育館(アリーナと格技場、トレーニングルーム)と音楽室、美術室等、その上に人口地盤をつくってグラウンドの建築が、平成七年七月を完成予定で計画されている。地下の体育館、人口地盤のグラウンドとも都立高校の施設としては、画期的なものである。今後共、同窓生の皆様の御支援・御協力をお願い申し上げます。

### (財) 箕会館

理事長 吉澤とよ  
(高女三五回)

会員の皆様、ご機嫌よろしゅうお過ごしでいらっしゃいますか。編集の方々が苦勞様でございます。

さて箕会館につきましては、色々の事情で、御報告することができませんでしたが、順々にかたづけ、漸く方針がままりました。箕会館の財産は、会館の建っている土地のみで、それが道路に面している部分がないことから鑑定の結果非常に低く、しかも単独では売却できないことがわかりました。それで長い時間をかけて隣接の会社の代表の方と話し合い、一緒に売却することにし、その代金で学校に近い所にマンションの一室を買い取ることになりました。

売却には財団法人の規則になかったいくつかの書類を、都庁の指導でつくり、昨年七月事務員の鈴木澄子さんに移転していただき、売却の用意は完了しました。ところが現在の不況で土地の買い手がつかず、結局、売却できる迄は今まで通り貸室として皆様に利用していただくことになりましたので、よろしくお願い申し上げます。

今箕会館は一ヶ月に数日、鈴木澄子さんに来ていただいておりますが、皆様が利用して下さる時の規則を次の様に決めましたので御了承ください。

- ①連絡所 鈴木澄子  
五九七六一三七二六  
夜八時〜八時三十分  
吉澤とよ  
三九六〇一〇三七七
- ②鍵をあずかっている所  
俵田浩一先生 竹早高校

### 関西箕会へのお誘い

内藤 花(高女二八回)

新年早々皇太子妃御決定のニュースに、国を挙げておよろこび申上げ、経済不況と政界のドロドロした状態の中に、明るい一条の光のさし入る想いに希望に満ちた年にと願われます。

箕会は年毎に東西の交流が盛んになり昨年の関西箕会には、東京から山廣俊雄副会長、岩田隆子竹早会理事長外数名の方が御出席下さいまして、(高三)河合道子様の御宅で、御主人様の陶芸作家河合紀氏の御協力も頂き、とても楽しい会でした。今年も東山麓粟田山荘での会が決まりました。美しい庭園、近くには青蓮院、知恩院、丸山公園、八坂神社、少し足をのびして頂きますと、三寧坂など京都らしい小路を清水寺へと、会の後の御散策もよろしいかと存じます。丁度新緑が鮮やかな時季にもなるかと思えます。何卒大勢御参加下さいませようお待ち申し上げます。

日時 五月二十一日(土)  
十一時半より二時半  
受付開始十一時  
場所 粟田山荘  
東山区粟田口三条坊二

電話(〇七五)五六一一四九〇八  
会費 六〇〇円  
当番(高十三回)

石川道子 〇七三二一九九一七九七〇  
小野文子 〇七七五一一九一二七八四  
中川大子 〇七八八二一一六七四二  
西出紀彦 〇六一八五四一五六八七  
六月の東京の総会にはこちらから出席させて頂くのを楽しみに致しておりますのでよろしくお願い致します。

森本美智子 高校三回

文京区小石川五二四一六

三八一五一一五四九

山廣俊雄 高校七回

文京区小石川四二二一一

「山廣園」

### (財) 竹早会

八ヶ岳寮の活動について

理事長 岩田 隆子  
(高校十一回)

今、私たちの生き方を問う直す時ではないでしょうか？自然を知らず、自然と共存するかが大事だと思います。竹早高校卒業生の皆様の財産として清里の八ヶ岳寮があります。その地域は山梨県が学校寮区と設定、施設が点在し、営利目的の使用が禁止されている為に、貴重な自然が残されています。敷地 一万八千坪、吉村順三事務所設計、清水建設施工の鉄筋コンクリート二階建の明るいセミナーハウス、芝生のグラウンド(二面)100m×50m、30m×20m)、そして清里済々寮と命名した作陶設備、草木染めの道具がそろっています。

ホールにはピアノもあります。これだけの設備が学校関係者、同窓生に充分活用されないのはなんとも、勿体無いとお思いませんか？

自主自立を校風とする竹早高校です。優秀な人材も事欠かないはず。お仕着せでなく、自分たちで機会を作り自由に世代をこえた交流がおこなわれれば、何かを学びあい、地球にも、人にも、自分にもやさしい生き方に変わることが出来るかもしれません。

そんな場に八ヶ岳寮を是非活用していただきたいと思えます。こんな願いを込めて、四月から毎月第二土曜日を

### 湘南箕会

神谷 美喜子(高女三二回)

四号が発行されます由、おめでとございます。それにつけても委員の方々の御骨折りさぞかしと厚く御礼申し上げます。又学校も校長先生初め諸先生、愛知会長の御骨折りにて大変御立派になりました由ありがとうございます。

昔の面影が少なくなったのは一寸淋しい思いもいたしませう。湘南にも春が参り梅の花も満開になりました。皆様のおうちには鎌倉辺りに御出かけの方も多々存じます。湘南たかむらも細々ながら一年一回の会合を持ち、昔話に花が咲いたり、現在までの移り変わりを楽しんだり、又嘆いたり。会長をお引受けしました時には多数の先輩が御出になりましたのに只今は私辺りが最古参。これはどうしても御若い方にパトナタッチを教さねばならない時が来ています。県立婦人総合センターの所長金森様(四三回)、又昨年総会でお話をいただいた星野昌子様(高校二回)は見事に御活躍なさっていらっしゃいます。又鎌倉女子大の松本様方々どうぞよろしくお願いいたします。昔は女学校で一区切り、今では上級の学校に進まれてそれぞれ御活躍でございますが、この竹早の生活は年を経る毎に又心によみがえって参りませう。高校を思い出しながら皆様の御活躍をお祈りしております。

会長 神谷美喜子(三二回)  
大河原きん(二六回)  
山崎 絢子(三十回)  
橋本 松子(三五回)  
加藤 縫子(三八回)  
弥永 瑠子(高三回)

中心に自然回帰塾を開くことにいたします。四月は座禪草、五月はハルリンドウ、六月青梨、七月朱鷺草、九月マツムシ草、十月まゆみ、十一月にしきぎウイークとそれぞれ、その時見頃な植物の名前をつけました。観察ハイク、作陶をはじめとするワークショップを企画しています。学校も第二の土曜日が休みになり、週休二日制もだいぶ定着してきたようです。個人で、ご家族で、仲良しグループでお誘いあわせご参加下さい。小さいお子様からお年を召した方まで、いろいろな年齢の参加者が、一緒に歩き、物作りをし、自由に交流するのが魅力です。



ボランティア募集中、活動の輪にお入りになりませんか。  
木曜入寮素泊り、金曜作業(敷地内整備、ワークショップ準備、保存食作り等)金曜宿泊、土曜朝食付き、無料二泊三食付き、ひきつづき回帰塾にご参加いただけます。

### 箕寿会だより

吉川凱江(高女四十四回)

平成五年度の箕寿会を、三月二十六日正午より、学生会館に於て開催いたしました。ご高齢の方も大勢ご出席予定でしたので、何よりお天気の事が気がかりでしたが当日は幸い、ますますの空模様でホッといたしました。

開会時間の四十分も前から来場される方が多く、廊下のあちらこちらで賑やかな挨拶が始まり、その様子を拝見していると、皆さんが箕寿会を楽しみに参加されるお気持ちが伝わって来て、本當にうれしゅうございました。只、小泉会長様、箕会の愛知会長様のお二人ともご出席頂けなかったのが、誠に残念でございました。お二人のご挨拶なしの会では困った事になったと思案いたして居りましたところ、箕寿会の設立発起人のお一人でもある、深沢てる様よりお手紙を頂きました。お手紙の内容は、当初、箕寿会がこんなに長く続くとは思わなかったが、皆さんでもり立てて頂き、本日まで盛会が続く本當に良かった、けれど箕寿会が高女の最後の方が入会されて、その方々が幹事をされたら閉会とし、箕会一本になる様希望している、挨拶も当番がなされれば良い、との事でございました。私共相談の結果、このご報告など併せて、村田照子さんよりのご挨拶とさせて頂きました。

催し物といたしましては、映画監督の今村昌平氏より「撮影の現場から」と題して楽しいお話を伺いました。最後はやはり校歌を斉唱し、又来年をお約束して、なごやかな会を終了させて頂きました。



# 先生の消息 (Q&A)

## 第四回 角川きよ先生 (社会)

葉山堀内の閑静なお住居に角川先生をお訪ねしました。大王松、蠟梅、白玉椿、門から玄関までの長いアプローチに植えられた木々を、いとおしそうに一本一本説明して下さる先生は、背筋もしゃんと伸びて、八十を越えられたとはとても信じられぬお若さです。

その昔、いたずら盛りの私たちは、敬愛をこめて先生を「おツノ」と呼びました。いつも着物姿で、礼儀作法、言葉遣いにこのほか厳格であられた先生は、よくツノを出され、叱られたことがまたなつかしい思い出としてよみがえります。

（竹早、当時の第二高女に赴任されたのはたしか終戦直後と思いませんか？）

昭和二十年三月三十一日に辞令が出ましたが、実際に登校したのは三月ほど後のことです。当時松戸に住んでいて、東京は焼野原、弁当持参で上野から歩き、途中後樂園で休んでお弁当を食べた記憶があります。焼け跡に青い木の芽が萌え出していました。学校には被災者が入っていて授業どころではなく、本を読んでは帰る毎日でした。

「戦争と平和」を読んで深い感銘を受けたのもその頃です。八月十五日ラジオを聞いた後、もんぺに下駄で全校生と共に宮城まで歩きました。あの暑い日に暑さを感じませんでした。地べたに座り、泣いて皇居を拝んでいる人々。あちこちでいろんな物を燃やしており、異様な風景でした。竹早時代いろんなことがありましたが、忘れられぬ光景の一つです。

## 日本列島卒業生インタビュー

（高校九回生） 戸室 寛隆

昭和三十一年の卒業なので、その後だけでも数千におよぶ卒業生がいる筈なんです。にもかかわらず私に卒業生インタビューとはどうしたことか。別名、日本の僻地とか日本のチベットとか呼ばれている地に坊主稼業をしている竹早出身の珍しいのがあるというほどのことか。私なりに思いをはせて寄稿させていただきます。



現住の地（庄内）に居を構えたのが昭和四十六年なので、この地に住みついてかれこれ二十二年になる。東京生まれの東京育ちにとっては、今でも東京が一番良いと思っ

ている。都落ちのヒガミとは言わぬまでも、都会で生活できるならそれにしたことはない。政治、経済、文化、教育の立ち遅れはいかんともしがたく、都会との格差が目だつてなくなつたのはクルマ社会だけだろう。「人生は経営」だとする私の持論からすれば、この僻地で、老夫婦、家内、そして子ども二人をなんとか保持して今日に到っているところをみると一応、人生経営はうまくいっているのだろう。もっとも晩婚がたつて娘も息子もまだ学生でその将来

（先生には地理、歴史を教えていただきましたが……）

敗戦当時、地歴は授業停止となり、当時どうしていいのかわからなかった。何をしたいのか分からなかったのが本音です。勉強が足りなかったことを裏心から皆様にお詫びしたいのです。当時の教師は皆模索することから始めました。古い教科書は禁じられ、新しい教科書はありませんでした。

（まず四大文明発生地から教えていただきたい記憶があります）

あれも自分で考えた世界史です。その後、夕プロイド版のような教科書が出ましたが、大筋において間違っていないものでした。みんな同じように考えたのです。先生は伊達藩ゆかりの仙台のご出身と伺っております。

伊達家の家老で涌谷藩の典医、十二代伊達家という家に生まれ、東北大学の下、米ヶ袋という町で、子供時代を過ごしました。

お向かいが本多光太郎先生のお宅で、周囲に学者の家が多いところ。小学校では女の子に競争相手がなく、小川四郎君という男の子が唯一のライバルでした。彼は先頃物理で紫綬褒章を受賞し、ここに訪ねてみて、何十年ぶりの再会を果しました。ロマンチックでしょう。

（活発で、幸せな少女時代の後、上京されて女高師に入られたのですか？）

女高師に入って驚いたのはその自由なこと。憧れの寄宿舎に入ったのに、ご飯のおいしくないのには開口しました。ホームシックになって湯島の聖堂裏を泣き泣き歩いたものです。

（劇作家の田中澄江さん、西洋史の林健太郎夫人などと一緒に一緒だったとか？）

田中さんは一級上。全国から才媛が集ま

は定かでない。

二人の子どもは東京在住なので現況は、大年寄り夫婦とわれわれ中年寄り夫婦の四人暮らしで、さながら老人ホームの感がある。これが仮に現代の平均的家庭の姿になりつつあるとすればゆゆしきことである。

私の卒業が昭和三十一年なので、以来かれこれ三十六年馬鹿をかさねたことになるのだが、歌の文句ではないが「人生いろいろ」で、順風満帆おとうさん、おかあさんからおじいちゃん、おばあちゃんへと昇格した人もずいぶんといるにちがいないし、そうでない人もまたいるにちがいない。不幸にして故人となった知友などあげればきりがながないが時の流れとはそうしたものだ。人によっては天をも恨めしく思うこともあるだろうが、定めなき世の習いの中で恩師、友の有り難さはまた格別である。

それぞれの人生経営の大きな支えになっていと思うのは私ひとりではあるまい。

三十二年組は現在も恩師を囲む会を定例で開いているが、その理由は何なのか、単なる過去への郷愁だけで三十二年も会が開かれるものか。それほど

りとかく面白い学校でした。上級生の命令で、袴をはいてお菓子を買に行くのが恥ずかしくて、恥ずかしくて……。赤の旋風が吹き荒れた時代。でも、思想指導費でお菓子をご馳走になったのですから。

（先生に連れて行っていただいた京都、奈良の修学旅行が今でも懐かしく思い出されます。先生は海外旅行にもよくいらっしゃると伺っておりますが？）

海外には四回ほど行きました。よかったのはイランのペルセポリス、イラクのバグダッド、パピロン。ロンドンでもパリでも朝早く表の掃除をしている奥さん達の帯は日本の座敷帯と同じで先がちよっと短いだけ。ノルウェーでは竹箒の長いものを腹を使って横に掃いていました。帯のルーツは中国だと思っけれど、形は万国共通、永久になくならないと思います。誰か世界的な帯の研究をしないかしら？

見せていただいた旅のアルバムの中には駱駝に乗られた先生の颯爽たる姿もありました。

（馳走になったホームメイドのいちじくコンポートのおいしき。レシビは母君直伝とか。）「葉山は、土地柄美味いものが入るし、とっても食欲があるのよ」とも。電車で隣合わせた外人さんと英語で交歓したり、子供の不作法をたしなめたり、若々しい好奇心と、毅然とした生活態度はますます健在と拝見しました。ただ、お庭に遊びに来て先生を喜ばせていた偏差値の高い狸の家族が、このところ姿を見せなくなつたのを大層残念がっていらつしゃいました。

写真はご辞退とおっしゃる先生はしかし、お髪も豊かに、桜いろのお顔はまるで少女のよう、お名残惜しくおいとましたことでした。高木萬里子（高校三回生）記

ろのふれあいがあるささるのだろうか。とにかくかなりご高齢の筈だ。できれば機会があったら一度コンタクトをとってみてはいかがなものだろう。人の命は無情なりということばが本当の意味で使えるのはこんな時以外にない。そろそろ自分の人生の経営について経営者として一考してみてもどうか。お互いにそんな年になった。現況は寺の住職のかたわら地元の高校で講師、町教委を勤める多忙の毎日。

住所 山形県西田川郡温海町風ヶ岡  
奥田六七一  
勤務 金剛山 善住寺  
（〇二三五―四四―二〇五八）

海と山に囲まれた風光明媚なところで、近くにはあつみ温泉があり、昨年は団体のヨット競技の開催地として脚光を浴びた。



左 旧姓  
中央 花木先生  
右 私  
高宮さん

# おたより談話室

思ひまはに

山階敬子（昭和十八年卒）

竹早を出たのはつい先年と思うようでも、その月日の流れは早くやがて半世紀……。歳月……。という語が使えらるまでになりました。



五年間の在学の中で能楽にご造詣の深かった先生のご指示にてか、音楽会の折りに講堂で仕舞を舞わせて頂く折がありました。その頃私を「能の家」に生まれた子だから能楽の道に進んで行くであろう」と思われる方もいらっしやうたでしょうが当時、能の家の女の子が能を志すなど門外漢のこととする時代でした。男性の命の中に伝承された能は女性の芸道でないと言う問を投げかけられ、自身も大きな壁に幾度も突き当たりながら、いつの間にか能を大切に生涯の伴侶として歩み、又これからも能に執してゆくであろう自分

分をふと省みるこの頃です。このおたよりで今、私が歩んでいる能を少しでも心に寄せて頂けたら嬉しいことと思えます。深く能に親しんでいらっしやる方には蛇足かとも思いますが。

御承知のように能は約六百年程前、室町時代、世阿弥によって大成され今も脈々と息づいている日本の大切な舞台芸術です。日本人のみならず世界の人の感性の中にも広く受け入れられようとしています。能は過去の遺物ではありません。世阿弥の著した「風姿花伝」には、花 によせて能の根本の美意識を次々に高揚させました。そして見事に今に伝承されて来ました。この様な能に近づいて頂くのに、はじめからあまりむずかしく考えないで先ず能に馴れ、親しんで見つけて下さいませんか？美しい絵を鑑賞するように……。時としてもっとも前衛的な芸術に向うような気持で……。いつの間にかその人の感性の中に演者とのコミュニケーションが出来るでしょう。

演者のところが能面にのり移り人間の表情以上に豊かに生きる面の感動。時として異次元へのかけはしとなる清々しい能舞台。舞台上で生きる彩の織りなす能装束の美しさ。気合と共に打ち鳴らされるそれぞれの楽器のゆえた響き。どれに心を留めても能のところに触れ合えると思えます。今私の能の仲間の女性で能の道を真摯に歩んでいる一人が居ります。どの道をやっても厳しいことですが彼女も一番正しいが苦しい道を選んで長い内弟子修行を過ごし、いま羽ばたいている岩屋雅子さんです。長い付き合いの中でこの人が竹早の同窓（高校十四回三十七年卒）であることを近年知り得

て私は本当に嬉しく一人の親近感を持ったものです。女流能楽師の道はまだ半世紀に満たず、壁も多いけれど、正しく能に向う姿勢を持ち続け、女性で能を志した少数の先人の越えて来た道を思い思い、これからの可能性や拓ける道を信じながら、健やかに舞台を続けて行き度く思うこの頃の私です。

## 寓話―戦争一九九一

天野 緑（高校四十七年卒）

焼き物をやっている。窯や何かの設備が要るので、美術の中では重厚長大のうちにいるだろう。ふらふらと放浪しながら仕事が出来たらいいけれど、それも行かないから、外国の友人とアトリエを交換しようというところにいる。異文化の中に自分を置くことが日本に在るだけでは分からない事を気づかせてくれる。人種や民族の傷みも日本に居たのでは分からない。また、土に加熱して焼き固める―と言う一見単純な作業の中にも様々な方程式があり、それを解きあかす鍵は釉薬の原料の1つであったり、焼成法の違いだったりする。必要ならどこにでも捜していく。一九九一年の始めカリフォルニア州のサンフランシスコ郊外の陶芸家の所でアメリカ方式の楽焼（日本の楽焼が伝わり、すばやく焼けることがアメリカ人の性格に合ったのか、多様に発展した）をやっていた。「カリフォルニア陶芸」と言われる程、一九七〇年前後のこの辺りの焼き物は放逸なダイナミズムに溢れていた。ベトナム反戦、ヒッピーが盛んな頃だ。それらは歴史と伝統の重圧の元に置かれた日本の陶

芸に少なからぬインパクトを与えた。今は以前の勢いはない。マリファナをやりながらバカスカ作品を作っていた大御所も、今はアルコホリックとドラッグ中毒で病院を出たり入ったりしている。が、陶芸家は多いし、趣味として窯を持つのも盛んだ。



一月十六日夕方、サンフランシスコの大通りに向かって歩いてくると、ちやうど二時間前に湾岸戦争が始まり、抗議の集会が始まったところだった。

「NO OIL WAR」の即席コピーのプラカードが配られる。その日からアーティスト達の話題はこの戦争について終始した。「地球環境を破壊する人間の愚かな行為」と捉える人が多かった。ブッシュ大統領を支持する人はいなかった。二六日の大きなデモにも、車椅子のベトナム戦争の負傷兵の後に、いろいろな市民グループや個人や家族が、大きな地球儀の張りぼてを掲げたり、オイルタワの仮装をして延々数キロに渡って続いた。レインボーフラッグを持ったゲイの人々が多いのもサンフランシスコらしい。CNN Nニュースで何度も繰り返し放映された油にまみれた水鳥の姿は全世界の人々にショックを与えた。私はその時

のアメリカ滞在の記録としてこの死んだ水鳥の姿を「寓話―戦争一九九一」という作品にした。たまたま仕入れたての楽焼の銅釉の発色はキラキラ光る油を表すのに最適だった。時代性が認められ思いがけずこの作品は私の代表作の一つとなった。これからも「人間」をテーマに作りつづけるだろう。

（日本陶芸展毎日新聞社賞受賞）

## 異国に生きる

鈴木 克洋（昭和六十三年卒）

「EC統一市場の完成」といった激動の時代に、交換留学生としてイギリスの地を踏み早くも半年余りが過ぎました。イギリスで実際に体験したことすべてが、私に考える機会を与えてく



れています。今日はその中でも、イギリスを中心として、ヨーロッパから見た、日本像について思うところを書いてみようと思えます。イギリスのメディアに接していると、

すぐに気付くことがあります。それは余りにも日本に関するニュースが少ないうことです。もっぱら「ファイナンシャル・タイムズ」紙に経済関係の記事が掲載される程度です。日本において、ヨーロッパやアメリカ関係の記事が毎日のように掲載されているのは全く対照的です。これは、日本が世界有数の経済大国になったといわれながらも大国としての役割を果たしているに十分な証しかも知れません。実際にこちらで生活していると日本はまだ遠い国であり、まさに、極東の一小国、でしかないのだと痛感させられます。例えば、私の友人が教えてくれたのですが、近所のおじさんに「日本の通勤は大変なんだってね」と聞かれたそうです。

なかなか日本のことを知っているなと思ったら、「道路一杯に自転車があふれるそうじゃないか」（それは中国！）まあ、これは極端な例ですが、まだ日本は日本人が思っているほど国際化していないようです。私自身、外国人に日本のイメージを聞くといつも日本製品、特に車についての話題になることが多いです。つまり、昔日本が「ジャマ・ゲイシャ」と思われていたのが、「トヨタ・ソニー」に変わっただけなのです。日本製品が馴染み深くて、それを作っている日本人や日本という国については、のっぺらぼうのままだのです。

そのような状況の中で、日本が国際化を果たすためには、海外に住む日本人の役割は益々大きくなるのではないかと思います。少しおかげさかもしれないですが、私も「日本と海外の友好関係に一役買えれば」と思いながら毎日過ごしています。

# 竹早エ

よつてまゝす

★高女十四回★大正三年卒

深沢 てる

やがて本年も会誌が拝見出来る事案しみてすが、この事に携わる方のご苦労を感謝致します。ご指示の要領については何もご報告する事はありません。何せ九十七才ですもの。僅かに寝たきりのお一人がおられるだけ。

私は孫の家族と同居しておりますが、別に痛い所もないので、人手を借りる事もなく、花いじりや近所の散歩、眼が病氣もないせいにか強く新聞、単行本、その他読書三昧、それと来訪者大歓迎、それも大變装に言つて老若男女、耳が少し駄目で、今はありがたい補聴器、不自由しません。

小学生の孫ともトランプ、パズルその他相手をします。テレビも時局の事、旅行記、風景、静かな音楽、野球、ゴルフ、テニス、相撲等々退屈しません。お笑いだきい人間は氣力です。

★高女二十回★大正十一年卒

向坂 ゆき

大正十一年(一九二二)三月府立第二高女卒業の私達は、昨年来寿を迎えました。

卒業当時四十四名だったクラスは、七十年を経て二十六名を失い(昨年十月栗原宣子様逝去)残る十八名も、長らく病床の方、一応元氣でも外出はままならぬ方が多く、元氣な顔を合わせられるのは僅か六、七名となつてしまいました。でも健在な方々は相変わらずの御活躍です。桃華会会員で毎秋の作品展に輝く井沢様、河西様、新宿高野ギヤラリーに集まって拝見するのが、近年唯一のクラス会となりました。幸島様は遠州流茶道の重鎮、その活躍ぶりはこれが同年の友かと驚嘆するのみ。村瀬様は舞台・映画・テレビと皆様ご承知の通りで、老体に鞭打たれてのご活躍は私達をばらはらさせますが、この頑張りこそ我等「第二」の誇りです。

淵淵様は昔ながらにクラスの星。卒業式に答辞を讀まれた河村様も先年ご病氣を克服され米寿のお祝宴に美しいお姿でお招き下さいました。

日本で七番目の女性医博、臨床医として最高のお仕事をされた岡本様は昨年十二月「米寿の足跡」という大変立派な御本を出版されました。御本職の余暇の書面のすばらしさと、迎られた道の必ずしも平坦ではなかったにもかかわらず、お幸せなご生涯であられることに深く感動します。この御本を拝見した人すべての思いでしょう。

同級の皆様もそれぞれ岡本様同様ご経歴の持ち主と故人のお顔も次々に浮かぶのです。そしてあまりにも成すなかりしが身を救うに省みるのですが、当時の小学生憧れの的「第二」に良き友と共に学び、様々の学科を通して教えられた深き人生の教訓は生涯、私の宝となりました。古き時代の生徒も、伝統ある母校「竹早」の一層の発展を切に祈ります。

★高女二十八回★昭和三年卒

甲組 福田 千菊

乙組 荒井 きく

昨秋十月十四日、クラス会を新宿住友ビル五十二階の日本料理、みゆき飯島、で開きました。出席なさったのは、背木敏子、石田布佐子、市川その子、杉あは、戸塚敬子、成瀬とさ子、松宮はつる、百瀬富美子、和田静江、福田千菊の十名、当日は久しぶりの会食に楽しいお話の花が咲きました。

欠席のお電話下さいましたのが、金森、滝沢、山之内のお三人、お手紙を下さいましたのが鈴木砂織、でもその時御元氣な御声で電話を下さいました山之内様の訃報が十一月十九日に伝えられました。

新聞ではJ.R.東日本副社長、山之内秀一郎様の母堂として訃報がのりました。係からは謹んで弔問のお手紙を差し上げました。

また、カナダにお住まいの亀ヶ谷様は、彼地で、日系カナダ人の抑留地を脱すお仕事を進められておられます。日本にお帰りの折は、お目にかかりたいとの事でございませう。今年もまた皆様と楽しいお顔合わせが出来ますよう係では努めておられます。また、クラスの情報がお耳に入りましたらお知らせ下さいませ。

★高女二十八回★昭和三年卒

乙組 荒井 きく

★高女三十三回★一九六二

一、一九九二年にはクラス会を五月と十一月の二回開催しました。しかしながら病氣のため、急に欠席なさった方が四名もありました。でも出席なさった九名の方々は皆健康で、楽しい会合でした。私達は昨年二年に入學、昭和三年の卒業までずっと一緒にクラス会で過ごしました。少女時代の色々な思い出がクラス会で旧友達と顔を合わせて、少女時代の昔に立ちかえらせてくれます。他の会合では味わえない懐かしさです。

お笑いになるかもしれませんが、クラス会には私たち老人にとっては生き甲斐ともいえるべき楽しい行事なのです。

二、今年もクラス会を二回開催する予定です。三、瀬川静子様、平成四年十月十八日夜、永眠されました。謹んでお知らせ申し上げます。

★高女二十回★昭和五年卒

石井 光子

乙組 諏訪 静子

私達三十回生は、昭和五年卒業で、もう半世紀になります。皆、齢八十を越しましたが、クラス会にお出でになる方は、本当にお元氣です。会合は、春秋二回行っております。一九九二年春は、横浜駅内、下鴨、で、終わってから船で横浜埠頭を見物しながら、山下公園で下船、グランドホテル、でお茶を飲んでお別れしました。秋は日本橋三越前、鴨川、でいつも甲乙合同で行います。大体三十名以内、顔ぶれは決まっております。三、四年前まで常連で出席されていらした中山八千代(旧姓美土路)さん、長い闘病生活の末、亡くなりました。敬虔なキリスト教徒でいらしたので、六月、渋谷の教会で厳かに葬儀が行われました。心から冥福をお祈り申し上げます。

クラス仲間は何時までも、元氣で、仲良くしていきたいと思います。私は、親友を二人、若い時失ってしまいました。今でも忘れられません。

★高女三十三回★昭和七年卒

乙組 諏訪 静子

乙組 諏訪 静子

年と共にお正月が早く来る感じがします。第四号の発行も間近、編集委員の方々はお忙しい

中、本当にご苦労の事と厚くお礼申し上げます。私たちが卒業した三十三回生は、昨年三月の集まりに十名、五月の集まりに十四名、十月の東京近辺在住の集まりに十二名の出席がありました。

五月の時は地方の方達にもご連絡するのですが、年毎に出席数が減るのは、やはり年のせいでしょうか。でも一昨年、喜寿のお祝い会をしてからは、全員元氣でそれぞれの場で活躍しております。

今年も春の集まりの準備をクラスの委員(一年毎まわりもち)で検討中です。是非多数の方々のご出席を願っています。

★高女三十四回★昭和九年卒

岡 茂子

私共、昭和九年に卒業した三十四回生は大方の人が満七十七歳を迎えます。思いもかけない長生きに驚きながらも、喜寿を祝う気持ちにもなれずにおります。

第二高女を卒業して以来五十九年の月日が流れました。その間甲組は四十八名から、消息のわかっていない者二十九名、乙組は四十九名から三十二名になりました。歳月のすさまじさを感じます。殊に平成四年には甲組では佐々木(旧姓三原)、大村(岡原)、多賀(奥岡)、乙組では別所(峰田)さんが亡くなりました。同年齢の死は殊更に寂しく思われます。甲組には消息の判らない左記の四人がおります。ご存じの方はどうぞ係までお知らせ下さいませ。

市川みつ、山崎(旧姓保田)満喜、内田久子、小方清。

クラス会には甲乙別々に年一回開いておりますが、数年に一回は甲乙合併の同期会も開いております。

平成四年には、集まりに合流してクラス会を持ちました。ビデオによって、高山様に取り組まれる田淵先生の晩年のご生活を偲びました。その後、豊科町の田淵記念館に伺った方もありました。しかしクラス会に出席なさる顔ぶれが決まっているのは、残念なことです。昔年をとって、ザックパランに話し合える年齢になりました。老後の日常の細事を語り合って、笑ったり嘆いたりして、楽しく生きていきたいものです。

また趣味の域をはるかに越えて専門家となつた友達との交わりも心動まされるものです。クラス会に出掛けていらつしやる方々のご出席を心待ちしております。

人ごとのような船や魚鳴ける 茂子  
肩引いて余生いとしむ松納め 良子

★高女二十六回★昭和十一年卒

紅組 山崎 照

乙組 荒井 きく

私共第三十六回紅組は、恒例の年一回クラス会を続けております。平成四年度は、赤坂の、みなみ、でいたしました。三十二名中二十名出席で、楽しく過ごさせていただきました。



一人一人近況報告致しましたが、足を痛められた方が二人おられました。また、全員いたって元氣。油絵の一紀会で「活躍の山内和子さまはじめ、それぞれ社会奉仕で活躍の方々もあり、写真のように七十四才とは如何でございますか。

★高女三十六回★昭和十一年卒

白組 早下部 房子

乙組 荒井 きく

一、年に二回、春秋にクラス会を開いております。出席者は地方からの方もいらして十四、五名です。

二、時期、会場は未定ですが、クラス会を開く予定しております。三、昨年は針ヶ谷様、多治見様がお亡くなりになりました。

★高女三十七回★昭和十二年卒

白組 菅谷 節子

卒後五十年は大分前にあつたという間に過ぎてしまいました。当然の事ながら、未亡人の数は

は増え続けておりますが、ここ数年、会員は健在です。

昨年は集まりの準備に動員されて、余韻の田淵記念館行きを決行する事が出来ました。常連の他に珍しい顔も多く、総勢十八名は、大糸南線豊科駅から、タクシーに分乗、まず先生のお宅の祭壇(数日前に三年祭が行われ、輿様がそのままだとして、お待ち下さった)にお参りし、墓所記念館を廻りました。墓所は小高丘の上から、北アルプスに對面、さぞ先生も満足な事と存じます。

安曇平の一角に建つ「こじんまりとした記念館には、見慣れた作品も数多く、先生との五年間が懐かしく思い出され、去りたい思いでした。翌日は宿の下から出る観光バスで上高地へ。晴れ渡った空に残雪豊かな穂高連峰の稜線がくっきりと映えて、一同の臉に焼きついてしまいました。

小梨平のセンターでは、またまた先生の作品と出会い、一五五尺で美しい「コーヒ」を飲んで一踏路路。短いながら、何より好天に恵まれ、有意義で楽しいそして旧交温まる旅でした。「また是非こんな旅を」と皆が思った事でした。

※田淵行男先生と記念館について※先生は入學から卒業まで五年間を通して受け持たれ、まもなく退官されたので、担任級は私共のみとなりました。生物、地理を担当された先生は、私共を近くの山や、夏休みには、北アルプスに連れて行って下さいました。必然的に山好き少女が多くなったわけですね。写真に傾倒しておられた先生の指導で作られた五年間の記録の分厚いアルバムは、私たちの貴重な記念品となりました。

その後は北アルプス山裾に疎開され定住、活動を続けられ、山岳写真家、高山蝶、あしなが蝶、雪形等の研究家として、高い評価を受け、数多くの作品を残されました。記念館とはその作品を保管、展示するために、豊科町が建てたものです。

★高女三十八回★昭和十三年卒

白組 瓜生田 俊子

乙組 諏訪 静子

井部先生、出陣先生が、亡くなられてから、三十八回紅白合同のクラス会をしていませんが、







# 学校の移り変わり

第二高女から竹早高校へ

憶い出—その一—

加唐 (旧姓間瀬) 興三郎

教師かけだし、旧制の名残り—

私が東京都立第二高等女学校へ採用着任したのは、昭和二十一年(一九四六)四月十八日(木)であった。午前九時初出勤し、石野校長(国立第一師範学校女子部長兼務)から、「東京都の方針なれば、当分囑託にて我慢せられたい」由で、四月二十日「月手當九十五円給与」で出発した。

(ものものしい書き方をしたが、私の着任当時はまだ終戦前の学校制度が残っていたことを推察せられたい。)

当日午後職員会議が校長室(今でいへば旧校舎の玄関を入ってすぐ左手の狭い)であった。勿論新学年出発の打あわせのためであった。部屋は狭く薄暗かったが、机、調度品は昭和の不況時代の製品のせい、仲々濃厚濃厚なものであった。諸先生方も田舎の老翁風の校長始め各科一、二名という、年配の男・女の先生方十数名で重々しい雰囲気であった。特に奇異だったのは福祿寿のような面長のI先生(日本史)と、逆三角形の大きなお顔のM先生で、ともかく頭の恰好のかわったお二人には驚かされた。あとの私をふくめた女の先生方が小さかったからかもしれない。玄関ホールあたりは薄暗かった。高女の生徒は元氣潑刺だった。敗戦直後のみじめな生活苦の世相の中にあっても。当時は高女5年が一組(四十七回生) 4・3・2・1年が各

二組で1年は後で新制高校一年生になる四回生(紫竹会)で、旧制高女最後の一年生であった。

当時、竹早町のあたりは一面焼け野が原で、旧都電の大家・数寄屋橋間がたまに通るくらい、校門の左右両側は瓦礫の原、そうそう小石川郵便局との間に、上は白く、下は濃い焦茶色煉瓦の倉庫が一つ焼け残っていた。瓦礫をどりのぞいてはそばそとした野菜畑もつくられていた。校舎の正面の眺めは西南向きに素晴らしい。何しろ目を遮るもの何一つない一面の焼け野原、僅かにポツンポツンと、敗戦後のブリキ板囲いの小屋が少々、今のように入マンションや商店が並ぶわけでもなく自動車排気ガスの公害もなく、夕方ともなると秩父・大山から富士の山がすばらしく本当にシルエットとなって影さうかぶのだった。とくに秋は夕暮れだった。

放課後ともなると乙女たちは集団で校門まわりの細い坂(無名?)を省線飯田橋駅の方に降りていった。都心は焼夷弾空襲で被災し、中央線郊外一杉並・三鷹方面へ疎開した家庭が多かったので飯田橋通学は多かった。



私は阿佐ヶ谷住まいだった。早く水道橋から①の都電に乗ると、よく頭長きI先生にお会いした。清廉な住職もされていた先生は、いかにも闊など出来ない風体で寒そうだった。私はといえば、学生服に黒のマントをはおるか海軍予備学生の略制服を着て通った。

なく圧倒され気おくれするものであった。ことに初任当時の五・四年位には。しかし逆に若手男子職員員のI・F氏ともどもチャホヤとおだてあげられ、もう知る人も少なくなつたであろう「山中湖事件」はこの若手三人教師によるまだ昭和二十二年五月のことだったと記憶している。

## 師範去る—

都有であった校地校舎は昭和十九年三月—終戦一年余前の戦時教育制度の改変によって国有に移管されたが、都立の第二高女の教職員や教育制度は都立のままであった。ここに苦難の数年が経過するのであった。私が着任当初は、女子師範生は戦時中の勤労動員や疎開から帰らず—寄宿舎は空襲で全焼し、住むに住めない状態であったこともあって、殆ど学校によりつかず、まともな授業も行なわれていなかった様子、かつ国立移管に伴っての制度改革がどうなるのか、占領下の学制改革の見通しのないまま、教職員もよろよろとするのみであったようである。その中で着任当初、私にもたされたのは教務の時間割編成であった。この時間割編成というのは、学校の根本である教育内容を具体的に組織運営するもので、かけたしの教員などの出来る筈のものはなかった。大体が当時は女子師範と共通の時間割で、同一校舎、かけもちの教職員で単一校的な時間割編成が行なわれていたのが、第二高女単独の時間割を、それも女子師範の空き時間、教室をつかっての時間割編成であるから、大いに屈辱の心理のもとに師範のO先生に頭を下げ、指導をうけ、何と

か時間割を作成する三年であった。第一に大きな共用の時間割盤から、その半分しかない小さな、しかし立派な新品の時間割盤を高女事務費でつくってもらうことから始めねばならなかった。私が基に興味をもちながら、なかなか今七〇才になるまで、習得に躊躇するのは、この時の厭な苦勞の憶い出があるからかもしれない。

昭和二十一年当時はI部長が弓道場の射場の小屋に—付属小との境の崖の上、講堂裏に—絵のT先生も図画の研究室に、ほか二三の教職員が空襲で焼け出され、校内生活をしていたが、二十二年秋、I部長が地方の師範学校に転任される頃、女子師範も新制大学今の学芸大学への構想が出来た。らしく、竹早の校舎から去る方が多くなった。

教職員室も、私が着任当時は玄関に入ってホールから宿直室、小使室に向かっ右側の大部屋で、大黒板と反対側の書類戸棚—上の方に使う椅子が印象的だった—の間に、それこそ雑然ゴチャゴチャと数十名の教職員の机と整理箱—およそ整理されてなかったものだが—が置かれ、年よりくさい教職員が動いていた。私の最初の席は大黒板側の恐らく未席らしく、師範の家庭科の、それこそおばあさん先生の間で、黒一点として大開口の至りであった。その大職員室も直ぐ間もなく師範の先生方は各研究室に移ってくれて、高女専用の部屋となり、まだ二十三名の職員が割合に広々と使用出来るようになった。

授業時間割の不自由だったことは前述したが、教室の使用割当については師範側は固有の普通教室使用は一切う

何しろ背広などつくれなかった時代だから。

生徒は第二高女伝統のセーラー服、胸あてのある、尻尾の短いネクタイ—夢にもロマンチックといえない—をしめ、体操衣は白のブラウスに膝までかくれる例のブルマース(ブルブルするからだとか)スカートは腰が二十四あるのが正式だ—平成の今でも—とかはその当時数えて知った。

早期四角い校舎の内庭にはいると、女子師範のO先生の夢にも音楽的ならざるピアノの音、K先生(体操)の大号令のわめきが聞こえてくる。テニスコートは講堂側に二面あった。例のI先生とM先生が旧式のラケットで時々テニスをやっていた。終戦後、大陸満州から帰国した家庭の生徒も大分いて、その父兄でテニスコートを借用してラコーチをしてくれる人もいて、私も駆け出しながら見よう見まねでテニスをはじめることになった。女子籠球は高女仲間では全日本的に強かった。近所の高師、文理大の名選手がコーチとして来てくれていた上に、近くの女高師の付属と常に優勝を争っていたせいもある。他に強かったのが女子バレー、当時は私立中村高女全勝の時代だったが、今からみると九人制の旧式バレーで、いつも相当のところまでいった。新しい所では、K先生が野球に興味があることで、急に組織したソフトボール部が、4回生を率いて猛練習した結果、たしか東京都で優勝したような記憶がある。

授業について—こと。戦前は所謂本郷・小石川区として所謂山の手のインテリ階級御出身の女生徒方、新任教師には年の隔たりも六・七才では、何とけつけてくれなかった。—余り正規の授業も行なわれていなかったのに。備かに理科、芸術、体育、家庭科等に実験実習室、体育館、教官研究室を共用としてくれたのみ、それも授業時間師範の空き時間のみという冷遇ぶりであった。校庭、体育館、放課後のクラブ活動は隔日週三日であったように記憶している。

今学芸大付属中になっている旧竹早高校の正門に入って、ヒマラヤ杉を右手に塀を潜った所に学生会館の玄関がある筈である。そこまでは都有時代からの既得の通行権があって、平成の今日まで通行可の筈であるが、その塀の上のセメント板が頭につかるので、撤去してくれないかと、師範が学芸大分校に替ってから頼んだことがある。すると返事に曰く、文部省のどこそこあてに国有財産建築物変造?願を提出してくれだ。と。国家のお役所という所は、こんな融通のきかない権威主義なものだと平民は充分認識して載きたい。そんなもの「ある時一寸何かでこわれまして」とでもしてくれば民主的だと思おうのですが—筆者の個人的意見。

こんなわけで、昭和十八年九月月以来の師範と高女の共存時代も、I部長の転任と、師範の新制大移管のため竹早の校舎から人員、図書殆どすべてが(事務職だけ残して)去る時を迎えるのであるが、女子師範の教職員の間には名門第二高女に未練、愛着をすてきれない人もあったらしく、高女に国立の付属高校にかわらないかと打診して来たことも、我々の間に話題になった。勿論そんな話は、意地でもうけつづられるものではなかった。

前日本国際ボランティアセンター事務局長・かながわ女性センター館長 星野 昌子



皆様今日は。今日は同窓の皆様にお話をする機会を得、感謝しております。私も高女四十九回生、高校二回生が入学したのは昭和十九年、第二次世界大戦、日本の敗色が濃くなり、疎開で級友が散ってゆく。平和になって皆が生きて延びて同じ学び舎に戻り、勉強が出来るかどうかという、生存の危機というか、緊張感が私達の気持ちを非常に強くつなぎ止めたと思います。疎開地から戻っての六年間が私の性格、人格の形成、その後の生き方に強い影響を与えました。

私は大学を出てまもなく結婚し、舅姑との同居の暮らしの中で、子供二人をもうけ、私なりに頑張るんですけども、その結婚は不幸に終わりました。九年と少しで離婚いたしました。一人で社会に投げ出され、子供との思い出がぎゅぎゅ詰まった東京を離れて、海外へ行きたいという希望の中で、偶然存在している。中心と周辺をなしているということが出来ます。

また世界を見ても、日本は経済大国として中心にあり、それを支えている東南アジア。天然資源も労働力も、私たちの生活は如何に発展途上国によって支えられているか。しかも中心が上があれば周辺も潤うというようなことがまだ信じられていて、例えば、海外援助を行う場合、草の根ではトイレもないような状況の中で、立派な病院やホテルが欲しいといわれれば、日本のODA、政府開発援助はそういうところに行ってしまう。大きな病院が出来れば、トイレもない状況がよくなるかという、よくならない。こういうことを私はラオスで強く感じました。

私は青年海外協力隊を二年で終えて、アジアの研究者と再婚し、引き続きラオスで暮らします。お手伝いに来てくれていた少女を娘として、三人で暮らしはじめますが、ヴェトナム戦争が激しくなり、ラオスに日本人が生活することが危険となって、メコン河を越えてタイに移ります。娘は当然一緒に来たがりましたが、ラオス人である娘の将来を考え、学費を送って学校を終えさせました。今は結婚してパリに住み、二人の子供を連れて時々バカンスにやってくる、そんな賑やかな関係です。

こうして移ったタイでは、丁度日貨排斥運動が起こり、反日感情の高まった時期でした。でも私はといえば現地雇用の一人で、私の仲間はタイ人です。日本企業が若い女性を雇い、結婚して子供が出来ると何かと理屈をつけて解雇するといった横暴なやり方、あるいは、日本で発売禁止になる洗剤とか医薬品とか、あるいは塩化ビニールの子供プール、強い日光に照らされると少

青年海外協力隊の募集を知り、その第一陣としてラオスにまいりました。アメリカの平和部隊をモデルに作られたもので、一九六五年のことです。

そこでいろんな驚きに出会います。着いた翌日挨拶に行った文部省で、文部次官に「ラオスは日本語の先生なんか要らない」といわれ、大変なショックを受けました。基本的に、人間が生きて行くためのノウハウ、公衆衛生、医療、栄養、その他を求めている国に国際語ですらない日本語を教えに行く要らないといわれた理由も今になればよく分かります。でも当時は驚きでした。しかし、そんな中でようやくクラスを開き、生徒とのいい関係が生まれて来ました。

次の驚きははじわわっと来ました。ラオス語を学ぶためにラオスの中流家庭にホームステイします。高床式の広い家で、ちゃんと鍵のかかる部屋とラオス語の名前、チャンベツ、一睡を吐くように聞こえますが、実はダイヤモンドのブルメリアという素晴らしい花の名前をいただいた、家族同様に二年間近く暮らします。畑があって、田圃があって、床の下には機械が置いてある。現金で市場から何かを買って来るといことが稀な自給自足の非常に高い生活です。水道がないので男の子たちは朝早くから水汲みに行く。晩御飯になると、お父さんが大きな重い包丁で挽肉を作る。誰かが火を起すと、味付けはお母さん。みんなが働いている。そんな中でお母さんは十人の子供を育てながら小学校の先生をしていて、それが何か当たり前に見える。仕事と家庭の両立という日本でも難しいことを、ちゃんとやっていた。もう一つの驚きは、十人の子供のう

し毒性のものが出るので、日本では発売禁止になります。そういうものは途端にバンコックの市場に出回る。日本人にとって危険なものは、タイ人であろうと、何人であろうと危険なんです。が、そういう人道的倫理を欠いた商売が当時横行していて、タイ人が反対するのは当然と思ひ、ストライキに参加して、支店長と呼ばれ「あなたは一体何人なのだ」と叱られました。

そんな中でインドシナ難民がラオスからも大量にタイに流入して来ました。一九七九年にはヴェトナムのボートピープルに続いてカンボジアの難民達が陸路タイに流入。タイに住んでいる日本人も、主婦達でバンコック近くで難民孤児の世話などをしていました。今の難民高等弁務官、当時上智大学教授の緒方貞子さんを団長とする視察団が来て、日本は大変なお金を出します。続いて日本政府は医療チームを国境の難民キャンプに送り込み、私も通訳として政府に雇われ、はじめて難民と組織的に関わることになりました。

ここで、もう一つ大きなショックを受けます。日本の病院を建てようとして杭を打つと、スイス人が抜いてしまふ。双方が怒ります。一九七七年BBCの放送を促し、全世界からボランティア団体が入り、各国が分担するブループリントが出来るところへ、一番遅れて入って来た日本政府がそれらを無視し、タイ政府だけを相手にして活動しようとしたことが弊害をかけたのです。確かに日本はいい働きをし、薬など物量も豊かですが、同じ目的をもって働いている人達と相談し手をつないでやって、はじめて尊敬され頼られるのであって、そうでない形で政府が入って行けば、かえって逆効

ち知恵遅れの子がいたのですが、この子は学校が出来ないからといって馬鹿にされることが全くない。それどころか家畜と同じ合える不思議な力を持っていて、非常に尊敬されている。障害者にも同じ生活を保証しようとする、ノーマライゼーションという日本でもなかなか出来ないことが、普通に行われている。日本の方がずっと進んでいて、ラオスに行けばいろんなことを教えられると思っていた自分が間違っていたんじゃないかと思えて来ました。

こうした暮らしの中から私は、私の失敗に終わった結婚を非常に客観的に考えられるようになりました。それまでは離婚した不幸な結婚は、性格の相違、嫁姑の問題、お酒など個人的なことだと思っていたんですが、これはそうではなくて、先進国、あるいは経済大国といわれる日本という国の構造的な問題ではないかと考えはじめます。私のかつての結婚では、たったのひとり息子、家の中心ですね、両親の期待も寄せられていて、この中心が上になる、偉くなることによって、中心を囲んでいる両親、妻や子もよくなる。日本では家庭は円錐形をしていて、中心がより上になるための周辺という構造になっている。一方、ラオスは円盤形で、家族は人間として同じ重みでその上の上になっている、というのが私のイメージです。この中心と周辺という構造は日本の到るところに見られます。例えば私達が今日こうして集まっている首都圏はその周辺によって支えられている。私の住んでいる横浜市も多量の産業廃棄物を神奈川県内で処理できず、東北とか、離れた地域に持って行って処理をして、それによって便利で、豊かで、知的刺激に富んだ生活が

果になる。民間というものが、日本ではもつと強くなる必要があります。

そんな頃、政府の医療チームに多くのボランティアが駆けつけて来ました。各国には歴史のある立派な民間団体がありますが、組織的に援助をやり始めると日本には民間団体がなかった。そこで、バンコックで前からボランティアをしていた主婦の方達の知恵を借り、日本大使館、商工会議所、日本人会、日本から来たボランティア、みんなの力を結集して作ったのが日本国際ボランティアセンターで、私は事務局長として九年間働きました。事務所も、電話も、有給の職員も、何にもないところから出発して十二年、現在平均して年間五億円という仕事をできるようになりました。アフリカ二カ国、アジア四カ国に四十人くらいの人を出し、今話題のカンボジア帰還、引き揚げに関しても働いています。何にもないところから、何でもない人達が、これをやるように思うと出来る。これが私の実感です。皆様も是非そういうエネルギーを心の

中に入れていただきたいと思います。昨年から八かながわ女性センターというところで仕事を始め、今、女性問題で燃えています。西欧に追いつき追い越せというのはでなく、私達が持っている賢さ、これは竹早の中にもずっと流れている一を活かしながら、より公平な社会、男女も平等であり、障害者を持った人、増えてきている外国人の働き手、その方達に支えられて私達の暮らしがある。そういう周辺を持ち上げながら、より平等な、円盤形の社会の構築に向けて、引き続き頑張りたいと思っています。(このお話は昨年の総会での講演のあらましです。総会に参加されなかった方々のために採録いたしました。)

(会報費振込のお願い！)

『会報費』を本年もよろしくお願い申し上げます。  
 下の表をご覧ください。創刊号につきましては、三千名に近い方々の協力をいただきましたのに漸減してきております。  
 皆様からの会報費で発行出来るこの会報です。これからは創立百周年に向かってよりよい会報をお届けしたいと存じます。  
 どうぞ同封の振込用紙に「〇〇〇円」を添えてお近くの郵便局までご足労をお願いいたします。

|         | 90年 | 91年 | 92年 |           | 90年 | 91年 | 92年 |         | 90年   | 91年 | 92年 |
|---------|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|---------|-------|-----|-----|
| 明治年間卒   | 0   | 1   | 1   | 昭和15年卒    | 45  | 55  | 54  | 昭和44年卒  | 47    | 36  | 28  |
| 大正 2年 " | 2   | 2   | 1   | " 16年 "   | 56  | 46  | 53  | " 45年 " | 40    | 25  | 29  |
| " 3年 "  | 0   | 1   | 1   | " 17年 "   | 47  | 40  | 32  | " 46年 " | 55    | 35  | 26  |
| " 4年 "  | 0   | 0   | 3   | " 18年 "   | 46  | 42  | 39  | " 47年 " | 43    | 42  | 27  |
| " 5年 "  | 6   | 2   | 5   | " 19年 "   | 50  | 47  | 33  | " 48年 " | 41    | 46  | 32  |
| " 6年 "  | 3   | 4   | 0   | " ※20年 "  | 101 | 95  | 91  | " 49年 " | 29    | 26  | 25  |
| " 7年 "  | 6   | 5   | 4   | " 21年 "   | 52  | 50  | 48  | " 50年 " | 29    | 36  | 32  |
| " 8年 "  | 4   | 3   | 5   | " 22年 "   |     |     |     | " 51年 " | 35    | 38  | 24  |
| " 9年 "  | 8   | 5   | 5   | " 23・24 " | 46  | 68  | 52  | " 52年 " | 39    | 27  | 21  |
| " 10年 " | 5   | 3   | 5   | " 24・25 " | 71  | 73  | 74  | " 53年 " | 41    | 37  | 29  |
| " 11年 " | 9   | 2   | 7   | " 26年 "   | 75  | 80  | 72  | " 54年 " | 37    | 23  | 17  |
| " 12年 " | 5   | 3   | 1   | " 27年 "   | 65  | 55  | 73  | " 55年 " | 37    | 25  | 20  |
| " 13年 " | 12  | 2   | 4   | " 28年 "   | 74  | 53  | 46  | " 56年 " | 28    | 19  | 22  |
| " 14年 " | 4   | 13  | 11  | " 29年 "   | 62  | 68  | 57  | " 57年 " | 26    | 24  | 13  |
| " 15年 " | 27  | 12  | 17  | " 30年 "   | 79  | 65  | 56  | " 58年 " | 25    | 31  | 22  |
| 昭和 2年 " | 23  | 26  | 16  | " 31年 "   | 47  | 48  | 46  | " 59年 " | 24    | 21  | 12  |
| " 3年 "  | 22  | 24  | 28  | " 32年 "   | 98  | 64  | 66  | " 60年 " | 17    | 14  | 13  |
| " 4年 "  | 14  | 16  | 11  | " 33年 "   | 98  | 75  | 66  | " 61年 " | 29    | 25  | 11  |
| " 5年 "  | 33  | 33  | 26  | " 34年 "   | 68  | 73  | 52  | " 62年 " | 28    | 13  | 10  |
| " 6年 "  | 41  | 34  | 31  | " 35年 "   | 69  | 42  | 44  | " 63年 " | 17    | 20  | 17  |
| " 7年 "  | 29  | 24  | 26  | " 36年 "   | 65  | 66  | 55  | 平成 元年 " | 81    | 15  | 16  |
| " 8年 "  | 32  | 40  | 34  | " 37年 "   | 64  | 58  | 44  | " 2年 "  | 42    | 26  | 10  |
| " 9年 "  | 37  | 37  | 37  | " 38年 "   | 41  | 38  | 42  | " 3年 "  | -     | 26  | 19  |
| " 10年 " | 31  | 34  | 29  | " 39年 "   | 46  | 35  | 32  | " 4年 "  | -     | -   | 23  |
| " 11年 " | 40  | 35  | 29  | " 40年 "   | 65  | 63  | 48  | 合 計     |       |     |     |
| " 12年 " | 40  | 43  | 35  | " 41年 "   | 57  | 34  | 33  | 90年     | 2,963 |     |     |
| " 13年 " | 44  | 35  | 36  | " 42年 "   | 59  | 51  | 24  | 92年     | 2,636 |     |     |
| " 14年 " | 45  | 32  | 37  | " 43年 "   | 55  | 51  | 35  | 91年     | 2,310 |     |     |

90年(平成 2年1月~12月) ※20年卒は45・46回生(これは1992年12月15日現在です)  
 91年( " 3年 " )  
 92年( " 4年 " )

会報通信

竹早エコーの欄は、原稿依頼の基本となる各学年のまとめ役の方を探すがひと仕事。苦勞の甲斐あって今回も沢山のお便りが集まりました。それもまして嬉しかったことは、これが刺激になって、同期会、クラス会を催すきっかけになりました。という添え書きが三通あったことです。高校生活は大学へのステップ、在学中も特別の思い入れもない時機といわれていますが、旧友の集いのお手伝いが出来たことを嬉しく思いました。

型を変えた三号は、スッキリして良か。い。という感想をいただきました。封筒も折リ口の先に糊付けした物を使用し発送手数料もずっと楽になった部分、制作費が割高になりました。私込数が号を重ねることに一割減になる現実、すこしく残念、無念の心境に追い込まれます。さて、通信費とはいかなる名目か? というお尋ねがありました。同窓会費は卒業時に永久会費として徴収されている。通信費としては高い。という意見でした。

会報委員会一同検討の結果、今回より会報費という名目に改めましたので、よろしくご理解の上ご協力ください。昔の話をすると、年をとったねといわれるのが決り文句。十八の少女が総会の当番幹事のお役目をつとめる年となりました。工事のため目かくしをされていた新校舎の一部が完成しその姿を現わしました。

通学路の小石川の街も中高層のミニビルが林立し、学校前のバス停にあった小さなななはこ屋もなくなりました。数年後には完成した校舎で総会を開くことが出来るでしょう。険に浮かぶヒマラヤ杉は教も健在です。

「多忙の中、加唐(間瀬)先生が学校の交遊を自分の懐い出を通して綴ってくださいました。乱心、乱行、乱獲、乱伐、乱暴と声に出して読みつづけると、今日の日本本の乱世の世相が見えてくるようです。貴方の身近に、乱の気配はありませんか。あなた自身、乱を感じていませんか。呼吸の乱れも健康への赤信号です。四号の表紙と誌面の挿絵を書いてくださった稲葉良子さんは、昭和十五年卒の先輩です。高女時代の同級生大谷和子さんが詩集「日向を求めて」を出版された折に美しい絵を添えられました。古稀を迎えられたお二人の五十余年にのぼる永い友情に限りない暖かさを感じ、せひにと作品のご協力をお願いいたしました。乱にあらざる和して美しくそのぬくもりが伝わって参ります。森本 美智子(高校三回生)

会報費払込のお願い

会報は皆様のお払込みと広告費によって発行されております。  
 なお一層のご協力をお願いいたします。  
 同封の振込用紙(振込手数料はいりません)にてお忘れなく。

会報委員会一同



|   |  |   |
|---|--|---|
| <p><b>株式会社 日東</b><br/>         ☎116 東京都荒川区荒川4-33-2<br/> <b>☎03(3802)4521</b><br/> <b>吉川 凱江</b><br/>         昭和19年(高女44回)<br/>         ☎116 東京都荒川区荒川4-33-2<br/> <b>☎03(3891)2020</b></p>                             | <p>不動産賃貸<br/> <b>齋スミレ</b><br/>         代表取締役 大橋 芳江<br/>         (昭和3年)<br/>         〒112 文京区小石川4-16-13<br/>         小石川パークタワー2301<br/> <b>☎03(3811)6400</b></p>  | <p>料理 研究 家<br/> <b>城戸崎 愛</b><br/>         (昭和18年卒・高女43回生)<br/>         ☎160 東京都新宿区大京町14<br/> <b>☎03(3351)5562</b></p>   |
| <p>歯科一般・矯正・小児<br/> <b>朝倉 歯科医院</b><br/>         院長 朝倉 利治<br/>         (昭和50年卒)<br/>         東京都板橋区小豆沢3-10-3<br/> <b>☎03(3960)8241</b></p>  | <p><b>彰栄保育専門学校</b><br/>         専任講師<br/> <b>中島 弘子</b><br/>         (黒川) 昭和25年卒<br/>         ☎112 東京都文京区白山4-14-15<br/> <b>☎03(3941)2613</b></p>  | <p><b>平河法律総合事務所</b><br/>         所長 稲見 友之<br/>         (昭和33年・高校10回生)<br/>         東京都千代田区平河町1-5-16<br/>         アオキスタジオビル<br/> <b>☎03(3261)1411</b></p>  |
| <p>酸洗鋼板・熱延鋼板<br/>         シャーリング・スリット・レベラーカット 加工販売<br/>         貴金属シール・サイン<br/> <b>泰誠産業株式会社</b><br/>         代表取締役 内山 光政<br/>         (昭和33年・高校10回生)<br/>         台東区上野3-13-1西武ビル3 階<br/> <b>☎ 03(3836)1068</b></p> | <p>有限会社<br/> <b>I M A 建築事務所</b><br/>         代表取締役・一級建築士 <b>伊藤 雄一</b><br/>         (昭和33年・高校10回生)<br/>         ☎221 横浜市神奈川区台町11-20<br/>         恒陽マンション908<br/>         PHONE 045(316)6691<br/>         F A X 045(316)6558</p> | <p>特殊刃物・スクレーパー 薄刃、厚刃、丸刃、超硬 設計 製作<br/> <b>ダイワ刃物工業有限公司</b><br/>         代表取締役 関 文隆<br/>         (昭和33年・高校10回生)<br/>         ☎175 東京都板橋区徳丸1-28-17<br/> <b>☎ 03(3550)3355</b><br/>         FAX 03(3550)3519</p> |
| <p><b>奄美クルマエビ(株)</b><br/>         専務取締役 上野 国衛<br/>         (昭和33年・高校10回生)<br/>         ☎894-05 鹿児島県大島郡笠利町手花部353 番地1<br/>         TEL 0997(63)2406<br/>         FAX 0997(63)1351</p>                                 | <p>電子部品<br/>         販売・製造<br/>         東光株式会社全製品特約店<br/> <b>光栄電子株式会社</b><br/>         代表取締役 <b>岩田 健児</b><br/>         (昭和33年・高校10回生)<br/>         東京都大田区東雪谷1-3-3 サンドビル<br/> <b>☎ 03(3728)6301</b></p>                         | <p>株式会社<br/> <b>久米設計名古屋支社</b><br/> <b>鈴木 一元</b><br/>         (昭和33年・高校10回生)<br/> <b>☎052(961)1441</b></p>   |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p>きものコンサルタント<br/> <b>秋葉美枝</b> (高校3回)<br/>         ☎150 東京都渋谷区神宮前3-5-9<br/> <b>☎03(3401)4345</b></p>                                | <p>メディコスセリーザ株式会社<br/>         自然化粧品<br/>         販売代理店 G・ファミリー<br/> <b>森本美智子</b> (高校3回)<br/>         ☎112 東京都文京区小石川5-24-6<br/> <b>☎03(3815)1549</b></p>                       | <p><b>高輪倶楽部</b><br/>         新 懐石 あじさい<br/>         イタリア料理 <b>ポストロ</b><br/>         ご予約ご会合、パーティなどご予約が必要となります。(3ヵ月前より受付)<br/>         定休日 日曜・祭日 駐車場完備15台<br/>         ☎108 東京都港区高輪2-19-13 NS高輪ビル11階<br/> <b>☎03(3280)5501</b></p> |
| <p>美術 顔 装<br/> <b>岡村 多門 堂</b><br/> <b>岡村美佐子</b> (高校3回)<br/>         ☎107 東京都港区赤坂2-13-19<br/> <b>☎03(3582)1621</b></p>               | <p><b>東邦音楽大学</b><br/> <b>東邦音楽短期大学</b><br/>         助教授 <b>河井 弘子</b><br/>         ☎112 東京都文京区小日向2-1-12<br/> <b>☎03(3945)3031</b><br/>         (高校3回)</p>                       | <p><b>暁の会衣扇流</b><br/>         古典舞踊 新舞踊<br/>         三世家元 衣扇 雄 暁<br/>         自宅稽古所 ☎132 江戸川区江戸川3-8-11<br/> <b>☎03(3676)1068</b><br/>         練馬稽古所 ☎176 練馬区豊玉北5-27</p>   |
| <p><b>古流松藤会</b><br/>         教授 <b>花岡理春(妙子)</b><br/>         (高校3回)<br/>         ☎112 東京都文京区目白台2-14-4<br/> <b>☎03(3941)1662</b></p> | <p>洋書・絵本卸商<br/> <b>齋東京ブックランド</b><br/> <b>五十嵐富士子</b> (高校3回)<br/>         ☎112 東京都文京区大塚3-3-3<br/>         遠州ビル2F<br/> <b>☎03(3942)1102</b><br/>         自宅 ☎176 練馬区中村3-38-9</p> | <p><b>三輪 医 院</b><br/> <b>三輪滋子</b> (高校3回)<br/>         ☎112 東京都文京区千石4-26-8<br/> <b>☎03(3941)7272</b></p>  |
| <p><b>永田 綾子</b><br/>         ☎247 神奈川県鎌倉市岡本2-12-2<br/> <b>☎0467(46)4828</b><br/>         (高校3回)</p>                                 | <p><b>高木万里子</b><br/>         ☎194 町田市南つくし野1-9-27<br/> <b>☎0427(95)7230</b><br/>         (高校3回)</p>  | <p><b>御代喜 久子</b><br/>         ☎176 東京都練馬区羽沢1-3-2<br/> <b>☎03(3992)4360</b><br/>         (高校3回)</p>   |

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p>インテリア デザイン室<br/>R. K. SCHAEFFER DESIGN<br/>建築インテリアデザイナー JID<br/>金子浩子 (昭和25年)<br/>〒107 東京都港区赤坂9-6-28<br/>アルベルゴ乃木坂1203<br/>PHONE: 03-3479-0563<br/>F A X: 03-3479-0859</p> | <p>静岡川根茶・狭山茶<br/>(株) 山広園本店<br/>専務取締役 山広俊雄<br/>(昭和30年)<br/>〒112 東京都文京区小石川4-21-1<br/>☎03(3811)2002・0565</p> | <p>モリシタ株式会社<br/>企 業 鑑<br/>森下賀代子<br/>92年12月7日株式公開(店頭登録)済み<br/>高女48回生</p> |
|---|---|---|

|   |  |
|---|--|
| <p>新聞・雑誌・広告申込所・宣伝企画立案・<br/>デザイン・編集・印刷まで<br/>●<br/>自費出版のご用命は是非当社へ<br/>お気軽にご相談下さい。<br/>一冊のご注文よりお引受します</p> | <p>株式会社 ニットー<br/>角掛 隆・角掛昌枝 (旧姓三部)<br/>(昭和33年卒・高校10回生)<br/>〒113 東京都文京区千駄木3-22-11<br/>シャルマン文京千駄木623<br/>☎ 03(3821)0210・(3827)0210<br/>FAX 03(3823)0064</p> |
|---|--|

社名が変わりました  
情熱が高まりました

私たちは、1991年5月「日本名簿出版」の社名を脱ぎ、新たに「サラト」の名を身にまといました。社名から「名簿出版」の4文字を外したのは、同窓会名簿の出版に留まらず、これまで以上に同窓会活動を広範にサポート・コンサルタントしていきたいとの思いの表れです。

「サラト」は、サラダを意味し、あらゆる料理の基本となる塩(ソルト)の意味合いも含んでいます。常に新鮮で個性を重んじ基本を大切にす企業になろう、こうした気持ちがCIを導入させ、社名を変更させたのです。

# SALAT

株式会社 サラト  
兵庫県姫路市北条356-1 〒670  
Tel. 0792-84-1380  
Fax. 0792-24-7746

サラト社のご協力の依り、来年6月1994年度版の名簿を発行することになりました。1993年8月頃より皆様の許に調査カードが発送されます。ご協力の程お願いします。又、同期の名簿がありましたら、竹早高校何回生何年卒業を明記の上(株)サラト宛お送り下されば幸いです。判明率80%を越すこの名簿は同期会の必需品です。尚この名簿は、第二高女、竹早高校の卒業生以外には販売いたしません。

都立竹早高等学校同窓会 筥 会

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

## 筥会同窓会

### 会 長 愛 知 富

(昭和9年卒)

京都市山科区川田清水焼団地12-1番地

## 株式会社河合紀陶房

河合道子 (高校3回)  
電話 075(581)5550  
FAX 075(591)9651

ボルボ正規ディーラー

## ヨシダ・オート株式会社

代表取締役 吉田光之 (高校17回)

〒113 東京都文京区向丘1-7-14  
☎ 03(3818)8551 FAX 03(3818)4734

淑子の鍼灸室

室長・国立病院医療センター麻酔科勤務(月・水)  
鍼灸師・医学博士

藤田淑子 (高女48回)  
診療日: 火・木・土 (予約制)

〒113 東京都文京区本駒込3-34-3  
TEL 03(3821)7075

VIAAX  
FOR CREATIVITY AND RELIABILITY

創造するビジネス考えるメディア  
**株式会社ヴィアックス**

東京都中野区弥生町2-8-15〒164 TEL:03(3299)6011 FAX:03(3299)6005

.....for The Harmony

環境・施設・物／企画・デザイン

irf

株式会社 イルフ

107 東京都港区南青山2-7-26 TEL.03-3402-9072 FAX.03-3402-9566

~~~~~ 魚の好きな人の店 ~~~~~ 座敷、テーブル ~~~~~

**本郷 佐とう**

昼：11時半～2時 夜：5時～10時半 (休日 日曜・祝日)

東京都文京区本郷5丁目23番12 鳩山ビル地階1階

電話 03(3816)3224

有田の伝統と近代の調和を目指す。

**I W A O**

岩尾磁器工業株式会社

三代岩尾 對山窯

本社工場 佐賀県西松浦郡有田町1288番地  
TEL0955(43)2100

對山窯 有田店 佐賀県有田町1144番地  
TEL(0955)42-5841

東京営業所 東京都中央区銀座2丁目8番5号岩尾ビル  
TEL(03)3561-9851

東京店 東京都中央区銀座2丁目8番5号岩尾ビル  
TEL(03)3563-2006

**学校法人 村田学園**

〒101 東京都千代田区神田神保町2-14  
☎(03)3264-3161(代)

**村田簿記学校**

**村田女子商業高等学校**

**東京経営短期大学**

専門体育教師による水泳・体育指導

個性を伸ばし、のびのびと明るい、元気な子を育てる

**日進まこと幼稚園**

(〒331)大宮市日進町2-1048(丸広百貨店南隣り) ☎(048)663-0938

**第二まこと幼稚園**

(〒331)大宮市日進町3-193(日進北小東隣り) ☎(048)664-1785

野尻国彦(昭和41年)

毎週木曜夜7時～9時、日進北小体育館でママさんバレーボールの練習をしています。お近くの方はどうぞご参加ください。

紙のご相談は

紙の総合商社

株式会社

**深山**

東京都台東区元浅草1丁目1-3

☎ 03-3842-1211 (大代表)

**HAKUSHU**  
ARTS

有限会社 博秀工芸 ●本社〒101東京都千代田区外神田6-9-8松尾ビル TEL.03-3836-3680 FAX.03-3834-4390 ●工場〒135東京都江東区千石3-1-33  
パンフレット・カタログ・ポスター・リーフレットなどの企画製作からオフセット印刷・転写まで幅広くお応えするクリエイティブな会社です。(村瀬共栄(昭36年))

# 清里で会いましょう

## ハヶ岳寮で自然回帰塾開催

自然の中で心と体を遊ばせ 自然に生かされている自己に気づくことを目的とします。

内 容 観察ハイク、ワークショップ(作陶、絵画スケッチ、木工、園芸、その他)

オープン期間

|                   |         |        |
|-------------------|---------|--------|
| 4月「座禅草ウィーク」       | 4/9~12  | オープニング |
| 5月「ハル lindウ ウィーク」 | 5/7~10  |        |
| 6月「青葉ウィーク」        | 6/11~14 | 穴窯窯焚き  |
| 7月「朱鷺草ウィーク」       | 7/9~12  |        |
| 9月「マツムシソウ ウィーク」   | 9/10~13 |        |
| 10月「まゆみ ウィーク」     | 10/8~11 |        |
| 11月「にしきぎ ウィーク」    | 11/3~8  | 穴窯窯焚き  |

### その他の自主講座

|                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 春休み自然教室(早春の雪残る清里) | 3月26日~28日               |
| ゴールデンウィーク自然教室     | 5月2日~4日                 |
| 8月の草木染め           | 8月14~18日(初心者コース、経験者コース) |
| 8月の自然教室           | 8月27日~29日               |

年齢制限なし 子供同伴 家族参加歓迎 参加者募集中

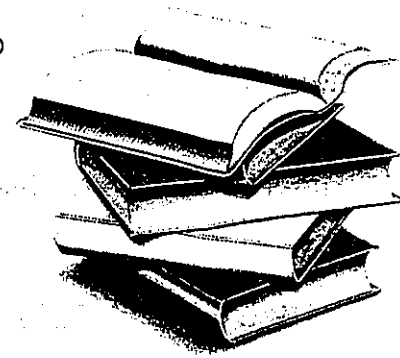
お問い合わせ(財)竹早会事務局 ☎03-3943-2415 FAX 03-3941-5872

財団法人 竹早会ハヶ岳寮

☎407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里学校寮区 ☎0551-48-2032 FAX 0551-48-3654

# Yes

学ぶことによって、  
個性が引き出され、  
創造力と判断力が養成される。  
そういう教育のありかたを  
実現するために、  
河合塾は文化性、情報性、  
国際性を備えた  
総合教育機関として、  
つねに変革している。



# No

志望校に合格するための  
知識だけを詰め込む。  
一方的に受験のための  
技術を教える。  
そういう教育のありかたに、  
河合塾は  
ダメを出したい。

## 河合塾

〈幅広く教育事業を展開している河合塾です〉

- 大学受験科 ●高校グリーンコース ●中学グリーンコース
- ドルトンスクール ●国際教育センター ●美術研究所
- トライデントカレッジ ●河合文化教育研究所 ●河合出版

駒場校 03(3485)3581 千駄ヶ谷校 03(3497)1581 池袋校 03(3988)0581 立川校 0425(26)0581

横浜校 045(312)6581 松戸校 0473(63)7581 千葉校 043(241)3581 大宮校 048(647)0581 藤沢校 0466(50)2581  
東京・横浜・藤沢・千葉・松戸・大宮・名古屋・豊橋・岐阜・津・京都・大阪・広島・福山・北九州・福岡

## 疲れと肌荒れに。



愛に科学をそえて  
Eisai  
イーザイ

ビタミンB2主剤



◎効能・効果 次の場合のビタミンB2の補給:肉体的疲労時、妊娠・授乳期、病中病後の体力低下時  
次の諸症状の緩和:肌あれ、かぶれ、ただれ、にきび、湿疹、皮膚炎、口内炎、口角炎、口唇炎、舌炎、赤鼻、目の充血、目のかゆみ。  
70・140・250錠 医薬品

# チョコラBB